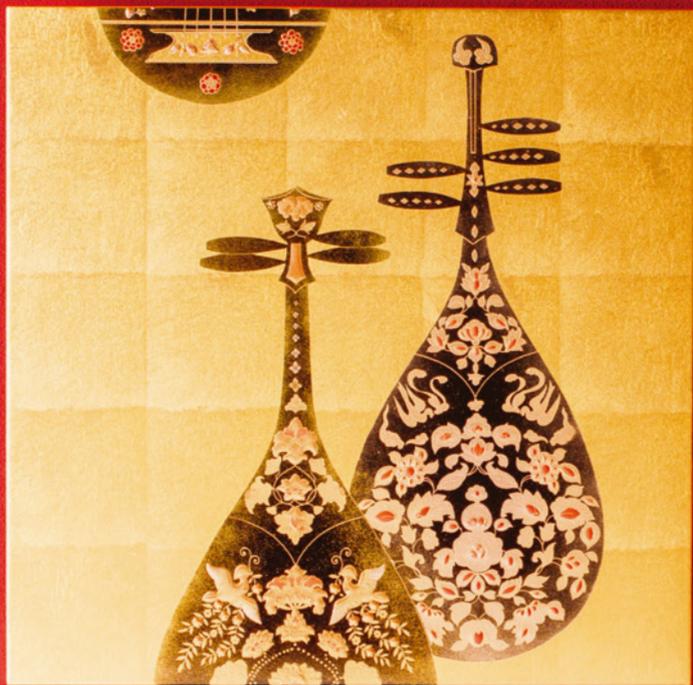


| カデンツァ |

# CADENZA

石川県立音楽堂 / オーケストラ・アンサンブル金沢 情報誌



新春スペシャル対談！

広上淳一 × 野村萬斎

日本人ならではの芸術を  
石川・金沢から世界へ



新春 スペシャル対談

共に石川県立音楽堂、オーケストラ・アンサンブル金沢という石川県の文化の発信拠点のリーダーを務めるお2人。能登半島地震から一年が過ぎ、まだ復興が思うように進んでいない中で文化活動を通して石川県の被災地にどう寄り添えるか。また、和と洋が共存する日本でも稀有な音楽堂において今後何をやっていきたいか、それぞれお話を伺いました。

(写真=ヒダキトモコ)

広上淳一 × 野村萬齋

オーケストラ・アンサンブル金沢 アーティスティック・リーダー

石川県立音楽堂 アーティスティック・クリエイティブ・ディレクター

和と洋が融合した日本人ならではの芸術を石川・金沢から世界へ

**広上** 元日の地震はもちろんですが、9月に同じ場所で狙い撃ちしたように豪雨があって本当に辛かったですね。萬齋さんも能登に心を寄せていらっしゃると思いますが、自分が関わっている場所が被害を受けているということをとんなふうにとらえてこれからを考えていらっしゃるでしょうか。

**萬齋** 被害に遭われた方々に対してあらためてお見舞いを申し上げます。コロナのときと同じで、こういう災難に遭ったときというのは非常に心が折れると思うんですが、明けない夜はないですから。文化芸術活動を通して、どうエールをお送りするか——変な話ですね、クラシックの世界も我々古典芸能の世界も数百年続いているというのは、人間が立ち直ってきたからこそその証拠でもあります。また能登半島がどうなってしまう

のか、ではなくこれから再生していくのだという希望をお持ちいただきたいですね。

**広上** 同感です。そして和と洋が共存した石川県立音楽堂があって、ようやく今年の10月に萬齋さんと共演できる。一緒に仕事をするのは初めてですね。

**萬齋** マエストロとご一緒できて光栄です。上演を予定している「鷹姫」はイェイツというアイルランドの詩人がケルト神話と能の共通点に興味を持って書かれた「鷹の井戸」が元ですね。それを我々が逆輸入して能をやっていたりするんですけども、何かもっとその根源的なところでつながる部分は何か——我々の西洋的解釈、西洋からの日本的解釈、またケルト神話との接点が、今回オーケストレーションも含めた形で何か見出せるものがあるのか。和の精神みたいなものがクラシックの中に溶け出すような瞬間が立ち上らないかなと。

**広上** そして我々が上演する「鷹姫」を海外に発信をしたいですね。我々の文化を西洋の人たちにもっと伝えていく時代が来たかなって。私は西洋音楽をやってますけれども、日本人の奏でるベートーヴェン先生やモーツァルト先生の演奏に誇りを持つべきだと思うのです。

**萬齋** 私からマエストロにぜひお尋ねしたいのは、日本人が奏でる西洋音楽って具体的にどんなものなのか。我々がやっている古典芸能だって本場みたいな顔をしながら、日本人にとってみれば海外のものをやるくらい不可思議なものになっているかもしれないですね。

**広上** 私が指揮者として欧米に出ていったとき「日本人にベートーヴェンがわかるのか」とね。小澤征爾先生の時代は随分言われたようですけど、私の時代でもまだそう聞かれてしまうのかがありました。でも私はそこに劣等感はなく、自分は西洋音楽が本場でない国で始めているけれど、どっちがいい悪いではなく卑屈になる必要もない。「我々日本人が奏でる

ベートーヴェンがあっという間

という考え方ですね。**萬齋** 単刀直入に聞いていますが、一番の違いってありますか。

**広上** いい意味でダイナミックですよ。あのふわっとくるものっていうのは何なんだろう——肉食なんですかね。我々はどちらかといえば魚。でも優劣ではなくて違いで、それを誇るということが大事なのではないか。そしてこれから萬齋さんと共演しますが、和に触れて学ぶことで西洋音楽を演奏する指揮者としても西洋人にはない何か私の中に宿るのではないかと考えています。例えば、私は萬齋さんが「どうする家康」で演じられた今川義元が踊るシーンをみて、その動きを指揮に応用することができるんですよ。吸収しようとするれば何ら障害はないというのが日本人の考え方ではないでしょうか。

日本人が奏でる音に誇りを持ち、世界に発信していく

西洋音楽と能が根源的なところでつながる部分を見出す

HIROKAMI

MANSAI NOMURA

# MANSAI NOMURA

世界に発信することで  
被災した方々に  
元気を出してもらいたい

和と洋がしのぎを削りながらひとつになる――  
予想がつかないレベルになることが楽しみ



# JUNICHI HIROKAMI

**萬齋** この前ローマの日本文化会館で狂言の公演をしてきました。日本に興味を持つ方がこんなにいるんだっていうぐらいにいらっしゃいましたね。それからイタリアは毎回ジブリのファンが多いんです。ジブリ作品の根底にある精神ってかなり和ですからね。それをカトリックの人々が喜んでくださるという。

**広上** 彼らは東洋の文化に対する潜望や神秘さというのを肌で感じているかもしれません。私たちの文化って八百万の神が様々なものに宿るといふ。それってすごく大事な考え方じゃないかって思うようになってきたんです。

**萬齋** それこそ多種多様な存在を認めるということの尊厳だと思いますよね。

**広上** 我々の芸術を全国に海外にと発信していくことは可能性があると思うし、そうすることで被災の方々にも元気を出してもらえたらと思います。

**萬齋** 和と洋が今回1つの形になっていくということで、マエストロとの共演も楽しみです、こちらも一流の能楽師と一流の演奏家の方々とはどんなふうにしのぎを削るのか、ある種の和の精神になっていくのか――予想のつかないレベルになることを非常に楽しみにしています。

## 広上淳一 Junichi Hirokami

尾高惇忠にピアノと作曲を師事、音楽、音楽をすることを学ぶ。東京音楽大学指揮科卒業。26歳で第1回キリル・コンドラシン国際青年指揮者コンクールに優勝。これまでノールショピング響、リンブルク響、ロイヤル・リヴァプール・フィル、コロンバス響、京都市響のポストを歴任。フランス国立管、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管、コンセルトヘボウ管、モントリオール響、イスラエル・フィル、ロンドン響、ウィーン響、サンクトペテルブルク・フィルなどへ客演を重ねる。オペラの分野でもシドニー歌劇場へのデビュー以来、数々のプロダクションを指揮。現在、オーケストラ・アンサンブル金沢アーティストリック・リーダー、日本フィルハーモニー交響楽団フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)、札幌交響楽団友情指揮者、京都市交響楽団広上淳一、マレーシア フィルハーモニー管弦楽団音楽監督。また、東京音大指揮科教授として教育活動にも情熱を注いでいる。

## 野村萬齋 Mansai Nomura

祖父・故六世野村万蔵及び父・野村万作に師事。重要無形文化財総合指定保持者。東京芸術大学音楽学部卒業。「狂言ござる乃座」主宰。国内外で多数の狂言・能公演に参加、普及に貢献する一方、現代劇や映画・テレビドラマの主演、古典の技法を駆使した作品の演出等幅広く活躍。現在の日本の文化芸術を牽引するトップランナーのひとり。芸術祭新人賞・優秀賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞、紀伊國屋演劇賞、毎日芸術賞千田是也賞、読売演劇大賞最優秀作品賞、観世寿夫記念法政大学能楽賞、松尾芸能賞大賞、2024年5月坪内逍遙大賞を受賞した。全国公立文化施設協会会長。



金沢百番街



石川県立音楽堂

個として存在するけれど  
溶けてみえるほどの

自然体の境地に



撮影協力: 第一金華 清酒(金箔入) 九谷焼 古九谷フリーカップ / 酒器 九谷焼 吉田屋フリーカップ / 酒器

## 広上淳一 & 野村萬齋

(OEKアーティストリック・リーダー)

(石川県立音楽堂アーティストリック・クリエイティブ・ディレクター)

**萬齋** 金箔は狂言の道具や能装束に使われたりしますね。それは暗い中で光を放つもの、光を受けて存在感を示すということで金を使うんだと思いますけれど。ただ、金って若いうちはちょっとキラキラし過ぎている感じがしますが、年を重ねると魅力的に感じてくるというのが不思議ですね。

**広上** 僕も好きですね。金って優しい感じがします。

**萬齋** (九谷焼&金箔フリーカップを手にとって) 本当に繊細ですよ。九谷焼も本当に細かく細かく、どうやってこの一筆をつけるのがちょっと想像を絶しますけれども。それと同時に、外側と内側のこのギャップがね。持っているとなんだか秀吉な気分。

**広上** この前の映画では家康でしたね。その「もしも徳川家康が総理大臣になったら」を拝見したんですが、民を愛する気持ちが表れた萬齋さんの台詞が僕らの世界にも通ずるなって。オーケストラって力で抑えようとしてもダメなんですよ。指揮者って名前は指図するって書くけど、実際音を出さないで溶けちゃうのが一番いいんですよ。だからオーケストラという演技者がいて、いるようでいなくなれば相当すごいレベルでしょうね。それは80歳90歳の大巨匠の域。だって震えているだけなのに何であんな音が出るのかって(笑)。やはり立っているだけでもオーラが出てくるんでしょう。

**萬齋** 父もそうですね、90歳を超えてやっていますと、発するというよりも吸引力に

なっちゃう感じがしますよね。ですから、本当に一挙手一投足に一つの美意識をみんなが持ち始めるのですが、本人は美意識よりは自然体をやっているだけというか。やってやろうというよりも、無私の境地ですね。

**広上** 素晴らしいですね。この金箔のお酒を見ている、お酒の中で金箔が確かに存在しているけどなんだか溶けてみえる。これと同じことでしょうね。

### SHOP INFO

#### 第一 金沢百番街店

石川県金沢市木ノ新保町1-1  
金沢百番街「あん」と内

TEL 076-234-0891

〈営業時間〉8:30~20:00 〈定休日〉不定休

※都合により内容に変更が生じる場合があります。

1.11  
(土)

第489回定期公演フィルハーモニー・シリーズ  
OEKならではの凛ときりりとしたワルツの世界を堪能しよう

●指揮:松井慶太(OEKコンダクター) ●ソプラノ:鈴木玲奈

ニューイヤー・コンサートと題されるコンサートは、ほぼヨハン・シュトラウス2世のウイナー・ワルツ、ポルカで構成されるのが定番だ。そうであることが当然の暗黙の了解となされている。クレメンス・クラウスがウィーン・フィルハーモニー管弦楽団とともに始めたニューイヤー・コンサートは創設時には政治的思惑が強いイベントであったかもしれない。しかし第二次世界大戦後はその政治性を落とす。そしてもう一つの性格である社会風刺的で高い娯楽性を備えていた部分と結びつきを強めて、「ニューイヤー・コンサート」=「シュトラウス・ファミリーの音楽」という型として再生して全世界的な広がりを見せた。日本では年末の第九、新年のシュトラウス・ファミリー、ドヴォルザーク《新世界交響曲》が年末年始の型であり、今やクラシック音楽文化だ。

「ニューイヤー・コンサート」を「型」として無意識のうちに受け入れていると気が付かないが、2025年はヨハン・シュトラウス2世の生誕200年の記念年。松井慶太とOEKもワルツの王の

有名ナンバーでプログラムを組んだ。鈴木玲奈のコラトゥーラ・ソプラノの歌声も新春に華やかさを加えてくれるに違いない。

ただ聴き手としてここで注意しなければならないことがある。「ウィーン・フィルだったらこういう音のはず」、「カラヤンやクライバーと比較すると」という言説だ。社会を風刺した、世情と人間の生きざまを考えさせる作品を生み出していた作曲家の作品は、紋切り型な基準で価値判断をしては勿体ない。もっと多様な解釈を受け入れる懐の深い音楽であるはずだ。室内オーケストラならではの凛と、きりりとした感じ、OEKならではのローカル色を投影したワルツの世界を地のものを堪能するように味わってもらいたい。

没後150年のビゼー、没後100年のサティ、没後50年のショスタコヴィチの作品もプログラミングされ、自らと社会の関わりを考えながら一年の計を考えるのも面白いかもしれない。(文=戸部亮)



J. シュトラウス II / 喜歌劇《こうもり》序曲  
サティ / ジムノペディ 第1番、第3番 (ドビュッシー編)  
ショスタコヴィチ / タヒチ・トロット  
ビゼー / 歌劇《カルメン》より  
J. シュトラウス II / ワルツ《美しく青きドナウ》ほか

コンサートホール  
14:00開演 (13:00開場)  
【全席指定】  
SS席 ¥6,000 / S席 ¥5,000  
A席 ¥4,000 / B席 ¥3,000  
スターライト席 ¥1,000  
\*25歳以下公演前日より半額で予約可  
\*託児サービスあり

3.8  
(木)

第491回定期公演フィルハーモニー・シリーズ  
沖澤とOEKの美質が反映されたオネゲルは必聴

●指揮:沖澤のどか ●ピアノ:牛田智大

沖澤のどかは今や日本人指揮者で最も活躍している指揮者の一人となった。指揮者の登竜門、2018年第18回東京国際音楽コンクール、2019年ブザンソン国際指揮者コンクールで優勝して加速度を増していったのは周知のとおりであるが、その前に沖澤の力を買っていた団体があった。オーケストラ・アンサンブル金沢(OEK)がその一つであったことは今や誇っていい事実だ。沖澤は2011～12年にOEK指揮研究員として在籍。成長への足固めをしていった。

指揮者の特徴を評する時、音色の色彩感や温度感を用いることがある。カラフルな音、ひんやりとした音、暖色ある音などが代表例。沖澤に適用するならば、端正でとても均衡のとれた音楽づくりが特徴と言えようか。声部それぞれがすっきりとしており、とても聞き取りやすい。これが見通しがよいか構築感があるという沖澤の指揮評へつながる。

したがって、今回OEK定期公演で取り上げるプロコフィエフ《古典交響曲》とオネゲル《交響曲第4番《パーゼルの喜び》》は沖澤の美質、よさが

確認できる作品と言えるだろう。《古典交響曲》は古くから指揮者とオーケストラのコンビネーションを恐ろしいほど露にするリトマス試験紙的な曲。同曲を楽しみにする人は多いだろうが、筆者はプロコフィエフ以上にオネゲルを推したい。

オネゲルの交響曲と言えば「交響曲第3番《典礼風》」が定番。同曲以外は演奏機会が頻繁にあるとは言えない。そんな中で沖澤は2024年に京都市交響楽団と「交響曲第5番《3つのレ》」を取り上げ、今回はOEKと「交響曲第4番」を演奏する。人間の謡、民謡を織り込み、すっきりとしたわかりやすい曲の雰囲気。それは同曲を委嘱した20世紀最大の音楽パトロンであったパウル・ザッハーが慈しみ、いかにも喜びそうな佳作だ。沖澤とOEKの美質を大いに曲に反映させてほしい。そして本拠地のみならず、東京の聴き手にもきっとオネゲルの交響曲の真価を伝道してくれるに違いない。

なお牛田智大によるモーツァルト「ピアノ協奏曲第24番」は特筆しなくても誰もが期待する聴きどころであることは言うまでもない。(文=戸部亮)



プロコフィエフ / 古典交響曲5  
モーツァルト / ピアノ協奏曲 第24番  
オネゲル / 交響曲 第4番「パーゼルの喜び」

コンサートホール  
14:00開演 (13:00開場)  
【全席指定】  
SS席 ¥6,000 / S席 ¥5,000  
A席 ¥4,000 / ビスタ席 ¥3,000  
スターライト席 ¥1,000  
車椅子席 ¥5,000  
\*25歳以下公演前日より半額で予約可  
\*託児サービスあり

1.26  
(日)

第490回定期公演マイスター・シリーズ  
超絶技巧を要するサン＝サーンスと指揮者の美質が問われるブラームス

●指揮:アントニオ・メンデス ●ピアノ:亀井聖矢

2022年、ロン＝ティボー国際音楽コンクールにおいて第1位を受賞。併せて「聴衆賞」「評論家賞」の2つの特別賞も受賞している亀井聖矢。最近ではテレビなどのメディアにもしばしば登場し、今ももっとも勢いのあるピアニストとして注目されている。その亀井がふたたびOEKと共演。曲目はロン＝ティボー優勝曲のサン＝サーンス「ピアノ協奏曲第5番《エジプト風》」を披露するというから聴き逃がせない。本作のニックネームは、サン＝サーンスがエジプト滞在中に作曲したことと、第2楽章の東洋的なエキゾティズムに由来する。また超絶技巧を要する曲としても知られ、ピアニストとして恵まれた大きな手をもつ亀井だけに、この手を活かした圧倒的なヴィルトゥオジティと表現力で聴くものを虜にするだろう。

そして演奏会冒頭を飾るシューマンは、若きサン＝サーンスに影響を与えており、後半のブラームスとシューマンの絆とともに、ロマン派の潮流や系譜を辿るプログラムといえる。

OEKは昨シーズンからブラームスの交響曲全4曲を取り上げているが(#476M「交響曲 第1番」、#485M「同第2番」、#488PH「同第4番」)、今回、その完結となる「交響曲 第3番」をメインに据える。シューマンの「交響曲 第3番《ライン》」と同じ番号の本作は、第1楽章にその類似性が指摘されており、シューマンから受け継ぐブラームスの心の内が垣間みえるだろう。第3楽章の初めに歌われる憂愁を帯びたチェロの旋律は、全曲中よく知られた聴きどころ。さらにOEK初登場となるスペイン出身のアントニオ・メンデスは、ヨーロッパの主要なオーケストラで出演を重ね、人気を集める指揮者のひとりとなりつつある。ドイツで指揮の研鑽を積んでおり、指揮者の美質が表れるブラームスの「交響曲第3番」にどうアプローチするかも注目だ。

(文=高山直也)



シューマン / 序曲、スケルツォと終曲  
サン＝サーンス / ピアノ協奏曲 第5番「エジプト風」  
ブラームス / 交響曲 第3番

コンサートホール  
14:00開演 (13:00開場)  
【全席指定】  
SS席 ¥7,000 / S席 ¥6,000  
A席 ¥5,000 / ビスタ席 ¥3,000  
スターライト席 ¥1,500  
車椅子席 ¥6,000  
\*25歳以下公演前日より半額で予約可  
\*託児サービスあり

3.20  
(木)

第492回定期公演マイスター・シリーズ  
躍動するマエストロ広上淳一が  
生氣に満ちた指揮でOEKを導く

●指揮:広上淳一(OEKアーティストック・リーダー)  
●ヴァイオリン:水谷晃(OEK客員コンサートマスター) ●チェロ:植木昭雄(OEK首席奏者)  
●オーボエ:橋爪恵梨香(OEK奏者) ●ファゴット:金田直道(OEK奏者)

18世紀後半から19世紀前半にかけてウィーンを中心に創作活動を行った、古典派の代表的なハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン。同地で活躍した作曲家を総称してウィーン古典派と呼ぶが、当時、産業革命やフランス革命の影響を受け、それまで王侯貴族の楽しみであった音楽が市民社会へと広がりみせる時代でもあった。また、18世紀中頃に大バッハの子息エマヌエル・バッハが「音楽家が聴き手の感情を動かすには、音楽家自身も感情を動かさなければならない」と説き、マンハイム楽派の多感様式などと相まってウィーン古典派へと結実。第492回定期公演マイスター・シリーズでは、音楽史に燦然と輝く、ウィーン古典派を代表するこの3人の大作曲家を取り上げる。

まずモーツァルトの歌劇《フィガロの結婚》

と同時期に作曲され、同作の序曲に比肩する「《劇場支配人》序曲」。同作曲家らしい明晰かつ簡潔な古典派の様式美をもつ一曲で、序曲の魅力が堪能できる。次に、ハイドンの「協奏交響曲」では、現在および次世代の主力となるOEK楽団員4名がソリストとして登壇。客員コンサートマスターの水谷晃をはじめ、植木昭雄(首席チェロ)、橋爪恵梨香(オーボエ)、金田直道(ファゴット)らによる4つの独奏楽器が華やかな演奏を繰り広げる。さらに彼らの親密なやりとりにも注目。そしてこの日のメインは、ワーグナーが「舞踏の聖化」と呼び、リストが「リズムの神化」と評したベートーヴェンの「交響曲第7番」。躍動するマエストロ広上淳一が、生氣に満ちた指揮でOEKを導くに違いない。同作曲家は、広上がOEKでの主軸としており、本作をどう深掘りする



かにも期待がかかる。

アーティストック・リーダー広上のもと、今後のOEKを牽引する楽団員にスポットライトを当てた本公演。早春にふさわしいOEKの新しい風を感じたい。(文=高山直也)

モーツァルト / 《劇場支配人》序曲  
ハイドン / 協奏交響曲  
ベートーヴェン / 交響曲 第7番

コンサートホール  
14:00開演 (13:00開場)  
【全席指定】  
SS席 ¥6,000 / S席 ¥5,000  
A席 ¥4,000 / ビスタ席 ¥3,000  
スターライト席 ¥1,000  
車椅子席 ¥5,000  
\*25歳以下公演前日より半額で予約可  
\*託児サービスあり

# 25年のOEK定期を彩る4人の日本人ピアニスト

唯一無二の個性！  
国際舞台で大活躍の旬のピアニストたち

MASAYA KAMEI



1/26 亀井聖矢

TOMO HARU USHIDA



3/8 牛田智大

HAYATO SUMINO



5/15 角野隼斗

KEIGO MUKAWA



10/24 務川慧悟

サン＝サーンス「協奏曲第5番《エジプト風》」

モーツァルト「協奏曲第24番」

グルダ「コンチェルト・フォー・マイセルフ」

プロコフィエフ「協奏曲第3番」

今シーズンのOEK定期は絶大な人気を誇る日本人ピアニストが4人登場。亀井聖矢、牛田智大、角野隼斗、務川慧悟——若くして確かな演奏スキルを携え、着実にキャリアを積み重ねながらも常にチャレンジングで今後が楽しみな気鋭ばかりだ。しかしそれぞれが持つ個性はプログラムと同じくらい千差万別。できることなら4公演聴き比べてみてほしい。

(文=上田弘子/音楽ジャーナリスト)

2025年の干支は「巳」。「鋭い洞察力を持ち、粘り強く自分の道を切り拓いていく」というのが巳年生まれの特長らしい。作曲家ではシューベルト(1797~1828)やブラームス(1833~97)が巳年にあたるが、その作風や生き方からも、何となく納得してしまう。という2025年、巳年生まれではなくても、粘り強く生きていきたい。明るい希望を持って。

さて、オーケストラ・アンサンブル金沢(以下、OEK)にも、巳年に相応しいピアニストたちが続々と登場する。まさに鋭

い洞察力を持った、独自の路線を極め邁進中の4人。

1月の亀井聖矢は、彼の代名詞とも言えるサン＝サーンスの「エジプト」。高度な技巧が求められるピアノ協奏曲だが、いわゆる超絶技巧ばかりを注視するのではなく、他に類を見ない亀井の美音を聴いてほしい。特に最近の亀井の音色は、緩急問わず多彩を極めている。サン＝サーンスがピアノに求めたものを、亀井が弾き示してくれるだろう。

3月の牛田智大はモーツァルト。それも「第24番」というのが興味深い。幼少期から活発な活動を展開していた牛田も今年26歳。誤解を恐れずに言うと、今の牛田が最も彼の本質ではないかと感じる演奏が多く、そのいずれもが心に沁みるのだ。意志の強いハ短調で開始される「第24番」だが、穏やかな第2楽章、そして変奏形式の第3楽章まで、“牛田のモーツァルト”が楽しみでならない。

5月の角野隼斗は、まさに自分の道を切り拓いているピアニスト。その角野が、独自路線の大先輩であるグルダ作品を演奏する。フリードリヒ・グルダ(1930~2000)は「ウィーンの三羽鳥」と言われたほどの大ピアニストで、と同時にジャズの分野でも活躍した。その昔、電子ピアノとモダ

ンピアノとでバッハの「平均律クラヴィーア曲集」を演奏したグルダ。あの忘れ難いコンサートから月日は流れ、角野が巨匠グルダに挑むステージには興味が募る。

10月の務川慧悟も楽しみでウズウズする。名ピアニストでもあったプロコフィエフのピアノズムを、職人気質の務川がどのようなアプローチをするか。読譜の深さと精緻な技術、そして古楽器からも多くを学んでいる、知性・教養・センスの塊である務川。これは絶対に聴き逃さない。等々、OEK通いが止まらない一年になりそうだ。

1/26、3/8公演のチケットは好評発売中!

(詳細はP13の公演情報をご覧ください。)

5/15は2/15、10/24は7/24にチケット発売予定。

詳しくはOEK公式サイトをご覧ください▶ <https://www.oek.jp/>

「オーケストラとの共演」「二人三番叟」「新作狂言」

音楽堂アーティストック・クリエイティブ・ディレクター **野村萬齋** スペシャルインタビュー

萬齋のおもちゃ箱「真夏の夜の夢」

メンデルスゾーン×狂言×琉球舞踊!?!  
斬新なコラボで楽しむ名曲の数々。

野村萬齋さんが自由な発想で舞台を創造する「萬齋のおもちゃ箱」。第3弾は「真夏の夜の夢」。シェイクスピアの同作品の劇音楽としてメンデルスゾーンが手がけた傑作だ。あの「結婚行進曲」を擁する作品としても知られる。

見どころは狂言と琉球舞踊とのマッチングだ。この作品と狂言との相性の良さには理由があると萬齋さんは語る。

「この作品のようにすれ違ったり間が抜けていたりという人間の滑稽な部分を表現した喜劇を観ることで心の浄化を感じることがあると思うんですが、それは狂言の真骨頂でもあるんです。また、シェイクスピア作品の魅力はやはり詩による表現にある。狂言の朗唱術が生きる部分だと思います」

物語は、貴族と職人による人間界と妖精界が絡み合って展開する。タイトルは「真夏」となっているが、ここでは一年で最も夜が短い夏至を指す。ヨーロッパではこの日の夜に妖精たちが舞い降りてくると伝わり、舞台では琉球舞踊によって華やかに表現される。

「いよいよ夏が来るという狂騒感のなかで、妖精たちや人間たちの色恋沙汰が展開されます。独特の衣装をまとい、花笠を手にした琉球舞踊の方々による南国風の優美な妖精も、楽しみにしていただきたいですね」

異ジャンルが融合し、まさにおもちゃ箱のような楽しさに満ちた奇想天外な舞台に期待したい。



野村萬齋

2/22 [土] コンサートホール

14:00開演 (13:15開場)

オーケストラアンサンブル金沢

萬齋のおもちゃ箱  
メンデルスゾーン 真夏の夜の夢

- 構成・演出・出演: 野村萬齋
- 指揮: 海老原光
- ソプラノ: 小林沙羅
- メゾソプラノ: 林美智子
- 出演: 野村裕基、嘉数道彦
- 振付・出演: 佐辺良和
- 児童合唱: いしかわジュニアオペラアカデミー

【全席指定】  
SS席 ¥7,000 / S席 ¥6,000  
A席 ¥4,000 / B席 ¥2,500



海老原光



小林沙羅



林美智子



野村裕基



嘉数道彦



佐辺良和

萬齋の新春玉手箱「二人三番叟」

新年の幕開けはこれで決まり!  
狂言師と日本舞踊家の華麗なるバトル。

新春を日本の伝統芸能とともに奏ぐ「萬齋の新春玉手箱」。2024年の野村裕基さんと歌舞伎俳優の中村鷹之資さんに続き、今回は萬齋さんと日本舞踊家の尾上菊之丞さんが「二人三番叟」を踏む。

萬齋さんの「三番叟」といえば、天皇陛下即位の晩餐会では歌舞伎俳優の市川海老蔵(現・團十郎)さん、文楽の人形遣いで人間国宝の吉田玉男さんと共演したことも記憶に新しい。今回共演する菊之丞さんは、歌舞伎のほか宝塚歌劇やフィギュアスケートのアイスショーなどの振り付けにも携わるなど、多彩な活躍が目立つ。

「日本舞踊ならではのダンスのニュアンスも期待して共演を依頼しました」

当日は、二つの三間四方の舞台が並べられる。

「まるでボクシングのリングのように見えるかもしれませんね(笑)。観客のみなさんには二人の対比するエネルギーをぜひ感じていただきたい。菊之丞さんは、狂言師の茂山逸平さんとはすでに『三番叟』を共演されているそうなので、こちらのお手合わせはどうなるのか、私自身も楽しみです」

このほか、柳亭市馬さんによる落語「七段目」、ひろしま神楽団による神楽「八岐大蛇」も上演。一年の幕開けを華やかに彩る。



尾上菊之丞

野村萬齋

1/25 [土] 14:00開演 (13:15開場) 邦楽ホール

新年を華やかに彩る芸能絵巻 萬齋の新春玉手箱

「二人三番叟」 落語「七段目」 神楽「八岐大蛇」  
○野村萬齋、尾上菊之丞 ○柳亭市馬 ○ひろしま神楽団

【全席指定】  
S席 ¥6,000 / A席 ¥5,000 / B席 ¥1,500

狂言&オペラ「日本昔ばなし」 狂言「彦市ばなし」・オペラ「あまんじゃくとうりこひめ」

アップデートし続ける新作狂言に注目。シェイクスピア作品との共通項も。

「日本昔ばなし」を狂言とオペラで楽しむユニークな試み。狂言「彦市ばなし」は昭和の劇作家・木下順二さんによる、熊本・八代地方ゆかりの民話劇がベースになっている。八代弁のセリフが興味深い。萬齋さんは彦市を演じる。

「八代弁は狂言の抑揚にぴったり。彦市は狂言における太郎冠者のような存在で、うそがばれて破綻していく様子が見どころです」

彦市のほか殿様、天狗の子が登場。職人、貴族、妖精が登場する『真夏の夜の夢』の設定と重なる。

「木下さんはシェイクスピアを研究した方としても知られていますから、もしかしたら意識していたのかもしれませんが、そのあたりも気にかけて観ていただくと、より深く作品を味わえるのでは」

ぜひOEKとの『真夏の夜の夢』(2025年2月22日開催)と合わせて楽しんでほしい。

この作品が狂言として最初に上演されたのは1955年。当時は萬齋さんの父・野村万作さんが天狗の子を演じた。今回は裕基さんが演じる。

「昭和の狂言の新作が古典化し、さらに現在進行形でアップデートし続けています。その瞬間を目撃できる貴重な機会になると思います」



3/22 [土] 14:00開演 (13:15開場) 邦楽ホール

伝統芸能とオペラシリーズ 狂言&オペラ「日本昔ばなし」

- 狂言による「彦市ばなし」
- 彦市: 野村萬齋
- 天狗の子: 野村裕基
- 殿様: 石田幸雄
- オペラ「あまんじゃくとうりこひめ」
- 監修: 池辺晋一郎
- 指揮: 柴田真都
- 演出: 西本浩明(演芸列車 東西本線)
- うりこひめ: 石川公美
- あまんじゃく: 仲谷響子
- ばっさ: 直江学美
- じっさ: 三塚至 ほか

【全席指定】一般 ¥4,500 / 高校生以下 ¥2,000





Interview: Shinichiro Ikebe

# 和洋の響V～能舞とオーケストラ

## 池辺晋一郎 インタビュー

### 「和」と「洋」が響き合う、能舞とオーケストラの創造のステージ



邦楽と洋楽、そして能舞が組み合わさる公演「和洋の響」。邦楽ホールとコンサートホールが両立する石川県立音楽堂ならではの企画で、作品は若手作曲家を対象に公募、和楽器だけでなく能舞と合わせることが可能な作品を発表するところに他に類を見ない独自性があります。今回は第1回より審査委員長・公演監修を務める池辺晋一郎 石川県立音楽堂エグゼクティブ・ミュージック・ディレクターにお話を伺いました。

一去年の2月、和洋の響は第5回を迎えます。これまでを振り返ってみていかがですか。これまではどういうわけか、邦楽と洋楽の組み合わせの面白さをエフェクティブに捉えて何が起ころうかというようなことを探求するような傾向の作品が多かったんです。今回選ばれた向井響さんの作品は、今までそうじゃなかったわけではないけど、いわゆるシリアスな現代音楽に正面から取り組んだ音楽になりましたね。向井さんの作品は楽譜を見ると丹念に書かれています。慣れないジャンルに手を染めたというわけではなく、よく楽器を知っていて書いているなという感じがします。

一日本の作曲家が邦楽や和楽器に造詣が深いことはやはり必要なものですか。作曲家の立場で言うと、日本の作曲家が日本の楽器を扱うことは宿命なんです。そのような作品を書くのは苦手だなんて禁句と言っていいほどで、当たり前のように書かなければならないんです。かつて若い頃にアジア太平洋作曲家会議に日本を代表して参加したとき、ベトナムの作曲家が「ベトナムの箏はベトナムの言葉」だって面白いこと言っていた。喋る言葉のイントネーションと同じことがお箏

で起きるということを知ってね。それぞれの国の楽器と言葉は非常に深く関わるものだと納得せざる得なかったんです。向井さんの年齢で今この作品を書けたことは彼にとって非常に大きな意味があったことだったんだと彼の立場になって考えますね。一今回、指揮者の飯森範親さんが審査から演奏まで関わられていますね。飯森さんはかつての岩城宏之さんと同じように現代音楽の初演魔なんです。一体今まで何曲初演しただろうって言うてるぐらいで、現代音楽に対する解釈や読譜力、演奏についてのノウハウっていうのを十分に知ってる指揮者です。

一ほかのプログラムは「マ・メール・ロワ」など組曲が選ばれました。邦楽とシンフォニーは合わないですね。ヨーロッパの音楽は絶対音楽が優位と言われてきましたが、日本の音楽に絶対音楽はないんです。必ず標題があって季節や花の描写とか、木々の移ろいを音楽に託すというアプローチ。だから物語が背景にある組曲を選びました。洋楽と邦楽が正反対の道を歩んできたからこそ、どう組み合わせるのが聞く側としては面白いわけで、いろんな視座から楽しみが内包されたコンサートになると思います。

2/11 [火祝] 14:00開演(13:15開場) コンサートホール

### 石川県立音楽堂 和洋の響V ～能舞とオーケストラ～

- 監修・案内役：池辺晋一郎
  - 指揮：飯森範親
  - 能舞：高橋憲正 (シテ方室生流能楽師)
  - 能舞監修：村上 湛 (石川県立音楽堂邦楽主幹)
  - 踊り・演出・振付：堀内将平 (K-BALLET TOKYOプリンシパル)
  - 箏：山野安珠美
- 向井響 / 「水の反映Ⅲ」～十三絃とオーケストラのための～ ※新曲初演 (2024年度和洋の響作品募集 優秀作品)  
 ミヨウ / フランス組曲  
 ラヴェル / 組曲「クープランの墓」、「マ・メール・ロワ」
- [全席指定] S席 ¥6,000 / A席 ¥4,000 / B席 ¥2,500



池辺晋一郎 (石川県立音楽堂 エグゼクティブ・ミュージック・ディレクター)

### 石川県立音楽堂ランチタイムコンサート

スペシャル版

# 少女漫画の神様に迫る!

## 少女漫画音楽史 in 金沢



### 萩尾望都 (漫画家)

コンサートホール

3/10 [月] 12:15開演 (11:30開場)

### 石川県立音楽堂 ランチタイムコンサート(スペシャル版)

### 少女漫画の神様に迫る! ～少女漫画音楽史 in 金沢～

- ご案内役・構成・ピアノ・オルガン：青島広志
- スペシャルゲスト：萩尾望都(漫画家)
- ソプラノ：横山美奈
- ヴァイオリン：坂本久仁雄
- チェロ：早川寛
- 語り：武内良樹

原作：萩尾望都、作曲：青島広志による「フレア・スター・ベティコート」、「柳の木」、「月夜のヴァイオリン」ほか

[全席自由] ¥1,000



### 音楽堂に萩尾望都先生が登場!

なんと石川県立音楽堂にあの萩尾望都先生が登場! 言わずもがな、デビュー55年経った今も第一線で活躍し続けている少女漫画界の巨星です。公演では萩尾先生を心から敬愛する青島広志先生が案内役を務め、お二人のトークはもちろん、萩尾先生の作品からインスパイアされて青島先生がつくられた曲が演奏されます。今回は青島先生に聴きどころを伺いました。この文章からほとぼしる「熱」をぜひ感じてください。



### 青島広志

はぎおもと 萩尾望都という名前をご存知ですか? 幼い頃「なかよし」や「少女コミック」で読んだことがある女性の方、代表作「ポーの一族」や「トーマの心臓」を愛読し、宝塚を始めとする舞台をご覧になった方、男性も「11人いる!」や光瀬龍の原作による「百億の昼と千億の昼」を愛読した方、SFファンで「スター・レッド」「銀の三角」を頭を抱えながら読んで方は幸せです。その作品によって感性が果てしなく広がったのですから!

私たち音楽家、いや広く作家においても、その名は脅威であり憧れでした。多くの作家たちが啓発を受け、模倣し、目標にし、そのエッセンスを吸収し、一億分の一は近付けたかな、と思って見上げると、更に上に居て優しく手招きしているのです。

少女漫画家を目指したこともある私は、先生の作品をデビュー時から拝見していました。とくにその緻密な絵は、何回見てもその度に新しい発見があります。「少女もの」という最も丁寧に描写しなければならない分野で、年令を重ねてなお、これ程の情報量を紙面に書き込む努力は、細かい音符を書き連ねる作曲と同じで、見る者に襟を直させるのです。

県立音楽堂のご好意で、今回もまた萩尾先生の作品を新しく音楽化することが出来ました。取るに足らない私の作曲技術が、先生のお名前を汚さないことを願うのみです。

どうか、先生に会いにいらしてください。信じられない程、魅力的ですから!

# 石川県立音楽堂主催 & OEK公演スケジュール 1月～3月

25 25歳以下の当日券半額(前日予約可) 託児サービスあり(有料:要事前申込み) 安 1,000円以下で入場できる公演 0歳から入場できる公演 ※都合により内容に変更が生じる場合があります。

## オーケストラ・アンサンブル金沢 石川県立音楽堂以外の公演

1.7 [火] 19:00開演(18:30開場) 交流ホール

音楽堂カルチャーナビ vol.4 託児 安  
山田和樹 岩城イズムを語る!



●ナビゲーター:山田和樹(指揮者)  
●ゲスト:木村かをり(ピアニスト)、  
東京混声合唱団メンバー

音楽堂やOEKの設立や岩城氏の想いを語らう。東混メンバーによる演奏も楽しみに!  
【全席自由】¥1,000

1.11 [土] 14:00開演(13:00開場) コンサートホール

オーケストラ・アンサンブル金沢 25 託  
第489回定期公演フィルハーモニー・シリーズ  
ニューイヤー・コンサート2025  
記念年の作曲家大集合



●指揮:松井慶太(OEKコンダクター)  
●ソプラノ:鈴木玲奈

J. シュトラウス II / 喜歌劇(こうもり)序曲  
サティ/ジムノペディ 第1番、第3番(ピュシッシー編)  
ショスタコーヴィチ/タヒチ・トロット  
ビゼー/歌劇(カルメン)より 前奏曲  
J. シュトラウス II / ワルツ「美しく青きドナウ」ほか

【全席指定】SS席 ¥6,000 / S席 ¥5,000  
A席 ¥4,000 / ビスタ席 ¥3,000  
スターライト席 ¥1,000 / 車椅子席 ¥5,000

1.18 [土] 14:00開演(13:00開場) コンサートホール

オーケストラ・アンサンブル金沢 25 託  
ファンタスティック・オーケストラコンサート  
北陸初! 岩崎宏美&岩崎良美、  
姉妹ジョイントによる  
オーケストラ・コンサート!



●指揮:碓山隆一郎  
●ヴォーカル:岩崎宏美、岩崎良美

ロマンス、母たちのララバイ、タッチ、  
ごめんねDarling ほか  
【全席指定】SS席 ¥8,500 / S席 ¥7,500  
A席 ¥6,500 / ビスタ席 ¥4,500 / 車椅子席 ¥7,500

1.21 [火] 12:15開演(11:30開場) コンサートホール

お昼のひととき 気軽にクラシック 安  
音楽堂ランチタイムコンサート  
OEKメンバーによるブラームスと佳曲たち

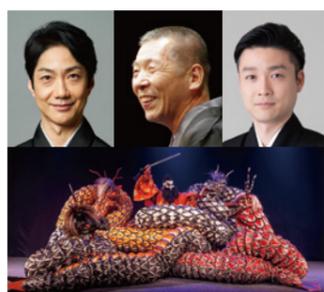


●ヴァイオリン:ヴァーン・ヒューズ(OEKヴァイオリン奏者)  
●ホルン:アンジェラ・フィオーレニ(OEKホルン奏者)  
●ピアノ:田島睦子

プログラム:ホルン三重奏より ほか  
【全席自由】500円

1.25 [土] 14:00開演(13:15開場) 邦楽ホール

新年を華やかに彩る芸能絵巻  
萬斎の新春玉手箱 25 託



【二人三番叟】

●野村萬斎、尾上菊之丞  
●笛:竹市学  
●小鼓:曾和鼓堂、古田知英、成田 奏  
●大鼓:亀井広忠

落語「七段目」  
●柳亭市馬 ●お囃子:太田その

神楽「八岐大蛇」  
●ひろしま神楽団

【全席指定】  
S席 ¥6,000 / A席 ¥5,000 / B席 ¥1,500  
車椅子席 ¥5,000

1.26 [日] 14:00開演(13:00開場) コンサートホール

オーケストラ・アンサンブル金沢 25 託  
第490回定期公演マスター・シリーズ  
第490回定期公演マスター・シリーズ  
亀井聖矢、ロン＝ティボー  
国際コンクール優勝曲を披露



●指揮:アントニオ・メンデス  
●ピアノ:亀井聖矢

シューマン/序曲、スケルツォと終曲  
サン＝サーンス/ピアノ協奏曲 第5番「エジプト風」  
ブラームス/交響曲 第3番

【全席指定】SS席 ¥7,000 / S席 ¥6,000  
A席 ¥5,000 / ビスタ席 ¥3,000 完売  
スターライト席 ¥1,500 / 車椅子席 ¥6,000

2.1 [土] ①午前の部 10:00開演  
②午後の部 12:00開演 交流ホール

2.2 [日] 14:00開演 0歳

～東京藝術大学連携事業～  
ミライへ繋ぐ音楽会 ワークショップ  
& コンサート

(下記の中から2～3つ参加出来ます)  
楽器体験コーナー/  
ペーパークラフト「動物の型を作ろう!」/  
「だれでもピアノ@」/粘土アート/  
デジタルアート「アニメーションを使って遊ぼう!」/  
ドラムサークル

【参加費】¥1,000(1家族あたり)  
専用申込みフォームより必要事項を  
ご記入の上、ご応募ください。

※0歳から入場OK はこちらよりお申込み▲

2.11 [火祝] 14:00開演(13:15開場) コンサートホール

オーケストラ・アンサンブル金沢 25 託  
石川県立音楽堂 和洋の響V  
～能舞とオーケストラ～



●監修・案内役:池辺晋一郎  
●指揮:飯森範親  
●能舞:高橋憲正(シテ宝生流能楽師)  
●能舞監修:村上 湛(音楽堂邦楽主幹)  
●踊り・演出・振付:堀内将平  
(K-BALLET TOKYOプリンシパル)

●箏:山野安珠美

向井響「水の反映Ⅲ」  
～十三絃とオーケストラのための～  
※新曲初演(2024年度和洋の響作品集 優秀作品)

ミヨー/フランス組曲  
ラヴェル/組曲「クーランの墓」、「マ・メル・ロフ」

【全席指定】S席 ¥6,000 / A席 ¥4,000  
B席 ¥2,500 / 車椅子席 ¥6,000

2.22 [土] 14:00開演(13:15開場) コンサートホール

オーケストラ・アンサンブル金沢 25 託  
MANSAI CREATION BOX  
～萬斎のおもちゃ箱～  
狂言と琉球舞踊、そしてOEKが奏でる  
メンデルスゾーンの傑作が織り交ざる音楽喜劇!!



●構成・演出・出演:野村萬斎  
●指揮:海老原光  
●ソプラノ:小林沙羅  
●メゾ・ソプラノ:林美智子

●野村裕基、嘉数道彦、佐辺良和  
●児童合唱:いしかわジュニアオペラアカデミー

メンデルスゾーン「真夏の夜の夢」  
【全席指定】SS席 ¥7,000 / S席 ¥6,000  
A席 ¥4,000 / B席 ¥2,500 / 車椅子席 ¥6,000

3.1 [土] 15:00開演(14:30開場) 交流ホール

山田和樹監修  
未来へのメッセージコンサート  
合唱の魅力、合唱の世界を広げよう!



●合唱:東混ゾリステン  
●共演:東混フレンズ合唱団 in 金沢  
村上満志(指揮)

合唱曲「春に」「心の瞳」ほか  
【全席自由】一般 ¥1,000 / 高校生以下 ¥500

3.8 [土] 14:00開演(13:00開場) コンサートホール

オーケストラ・アンサンブル金沢 25 託  
第491回定期公演フィルハーモニー・シリーズ  
OEK再発見・新発見。  
OEKを知る沖澤の野心的プログラム



●指揮:沖澤のどか  
●ピアノ:牛田智大

プロコフィエフ/古典交響曲  
モーツァルト/ピアノ協奏曲 第24番  
オネゲル/交響曲 第4番「パーセルの喜び」  
【全席指定】SS席 ¥6,000 / S席 ¥5,000  
A席 ¥4,000 / ビスタ席 ¥3,000  
スターライト席 ¥1,000 / 車椅子席 ¥5,000

3.10 [月] 12:15開演(11:30開場) コンサートホール

石川県立音楽堂ランチタイムコンサート(スペシャル版)  
少女漫画の神様に迫る!  
～少女漫画音楽史 in 金沢～



●ご案内役・構成・ピアノ・オルガン:青島広志  
●スペシャルゲスト:萩尾望都(漫画家)

●ソプラノ:横山美奈 ●ヴァイオリン:坂本久仁雄  
●チェロ:早川寛 ●語り:武内良樹

原作:萩尾望都、作曲:青島広志による  
「柳の木」「月夜のヴァイオリン」ほか  
【全席自由】¥1,000

3.16 [日] 14:00開演(13:15開場) コンサートホール

石川県ジュニアオーケストラ  
第31回定期演奏会 入場無料



●指揮:松井慶太(OEKコンダクター)

J.シュトラウス II / 「ジプシー男爵」序曲  
チャイコフスキー / バレエ音楽「白鳥の湖」より、  
交響曲 第5番 ほか  
【入場無料】要入場整理券  
音楽堂チケットボックスにて1月中旬より配布開始

3.20 [木祝] 14:00開演(13:00開場) コンサートホール

オーケストラ・アンサンブル金沢 25 託  
第492回定期公演マスター・シリーズ  
ウィーン古典派に聴くOEKの名手たち



●指揮:広上淳一(OEKアーティストック・リーダー)  
●ヴァイオリン:水谷晃(OEK客員コンサートマスター)

●チェロ:植木昭雄(OEK首席奏者)  
●オーボエ:橋爪恵梨香(OEK奏者)  
●ファゴット:金田直道(OEK奏者)

モーツァルト/《劇場支配人》序曲  
ハイドン/協奏交響曲  
ベートーヴェン/交響曲 第7番

【全席指定】SS席 ¥6,000 / S席 ¥5,000  
A席 ¥4,000 / ビスタ席 ¥3,000  
スターライト席 ¥1,000 / 車椅子席 ¥5,000

3.22 [土] 14:00開演(13:15開場) 邦楽ホール

伝統芸能とオペラシリーズ  
狂言&オペラ「日本昔ばなし」



●指揮:野村萬斎、野村裕基 ほか

●監修:池辺晋一郎  
●指揮:柴田真都  
●演出:西本浩明 ほか

※企画の中都合により内容の変更、  
中止や延期になる場合がございます。  
【全席指定】一般 ¥4,500 / 高校生以下 ¥2,000

3.28 [金] 18:00開演(17:00開場) コンサートホール

オーケストラ・アンサンブル金沢  
玉置浩二「ODE TO JOY」



●ヴォーカル:玉置浩二  
●指揮:柳澤寿男

(チケット・問合せ)FOB金沢 076-232-2424  
※音楽堂での取り扱いはありません。

3.30 [日] 14:00開演(13:00開場) 託

オーケストラ・アンサンブル金沢  
オーケストラの日

●指揮:石崎真弥奈

【全席自由】  
一般 ¥1,000 / 中学生 ¥500  
小学生以下無料(3歳以上入場可)  
※OEK定期会員様、賛助会員様 ご招待

能登半島地震 復興応援コンサート

〈問合せ〉  
オーケストラ・アンサンブル金沢  
TEL 076-232-0171

1.19 [日] 14:00開演(13:15開場)  
越前公演 (会場)越前市文化センター

●指揮:碓山隆一郎  
●ヴォーカル:岩崎宏美・岩崎良美



ロマンス、母たちのララバイ、タッチ、  
ごめんねDarling ほか  
【全席指定】一般 ¥5,500  
越の都指定 ホール会員 ¥4,500  
高校生以下 ¥1,500

2.27 [木] 19:00開演(18:15開場)  
埼玉公演 (会場)埼玉会館 大ホール



●指揮:松井慶太  
●ソプラノ:鈴木玲奈  
●コーラス:青森県立八戸高等学校音楽部  
八戸ジュニアオーケストラ

シャルパンティエ/「テ・デウム」前奏曲  
ヘンデル/「オンブラ・マイ・フ」  
モーツァルト/《魔笛》より「夜の女王のアリア」  
ヨハン&ヨーゼフ・シュトラウス/ピッツィカート・ホルカ  
モーツァルト/交響曲 第41番「ジュピター」 ほか  
※都合により曲目が変更になる場合があります。

池辺晋一郎/祈り、そして光  
一能登半島地震犠牲者の鎮魂として  
モーツァルト/ピアノ協奏曲 第9番「ジュノム」  
ピアノ/オマリピオン、リベルタンゴ  
初恋、魔王、花は咲く ほか  
【全席自由】一般 ¥3,000 / 高校生以下 ¥1,000

2.28 [金] 19:00開演(18:15開場)  
熊谷公演 (会場)熊谷文化創造館  
太陽のホール



●指揮:松井慶太  
●バリトン:原田勇雅  
●共演:熊谷少年少女合唱団

池辺晋一郎/祈り、そして光  
一能登半島地震犠牲者の鎮魂として  
越谷達之助/初恋  
シューベルト/菩提樹(「冬の旅」より)、魔王  
菅野よう子/花は咲く  
(合唱団と共に) 旅立ちの日に、ビリーブ  
モーツァルト/交響曲 第41番「ジュピター」

【全席自由】一般 ¥3,000 / 高校生以下 ¥1,000

3.1 [土] 16:00開演(15:15開場)  
飯山公演 (会場)飯山市文化交流館  
なちゅら



●指揮:松井慶太  
●バリトン:原田勇雅

池辺晋一郎/祈り、そして光  
一能登半島地震犠牲者の鎮魂として  
越谷達之助/初恋  
シューベルト/菩提樹(「冬の旅」より)、魔王  
菅野よう子/花は咲く  
モーツァルト/交響曲 第41番「ジュピター」

【全席自由】一般 ¥3,000 / 高校生以下 ¥1,000

1.12 [日] 13:30開演(14:00開場)

射水公演  
ニューイヤー・コンサート2025  
記念年の作曲家大集合



1/11(土) 金沢公演と同じ

【全席指定】一般 ¥4,000(会員 ¥3,600/当日 ¥4,500)  
高校生以下 ¥1,000(会員 ¥900)  
〈会場〉アイザック小杉文化ホール  
〈問合せ〉アイザック小杉文化ホール  
TEL.0766-56-1515

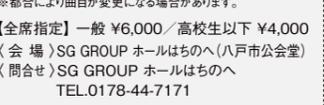
1.15 [水] 18:30開演(17:45開場)  
八戸公演  
オーケストラ・アンサンブル金沢  
ニューイヤー・コンサート



●指揮:松井慶太(OEKコンダクター)  
●ソプラノ:鈴木玲奈  
●コーラス:青森県立八戸高等学校音楽部  
八戸ジュニアオーケストラ

【全席指定】S席 ¥6,000 / A席 ¥5,000  
B席 ¥4,000 / C席 ¥2,000 / 車椅子席 ¥5,000  
〈会場〉サンリーホール  
〈問合せ〉石川県立音楽堂チケットボックス  
TEL.076-232-8632

3.9 [日] 15:00開演(14:30開場)  
浜松公演



●指揮:沖澤のどか  
●チェロ:鳥羽咲音

プロコフィエフ/古典交響曲  
サン＝サーンス/チェロ協奏曲 第1番  
オネゲル/交響曲 第4番「パーセルの喜び」

【全席指定】  
一般 ¥6,500 / 学生(24歳以下) ¥1,500  
〈会場〉アクティシティ浜松 中ホール  
〈問合せ〉(公財)浜松市文化振興財団  
TEL.053-451-1114

2.2 [日] 14:00開演(13:00開場)  
「白山市の第九」公演  
白山市政施行20周年記念  
～絆は歌声と共に～



●指揮:川瀬賢太郎(OEKパーマネント・コンダクター)  
●ソプラノ:小林沙羅 ●メゾソプラノ:小泉詠子  
●テノール:望月哲也 ●バリトン:宮本益光

●合唱:はくさん合唱連盟第九特別合唱団、  
白山市内小学生合唱団

白山市民の歌  
源田俊一郎/ふるさとの四季  
ベートーヴェン/交響曲 第9番(合唱付き)

【全席自由】一般 ¥4,000 / 高校生以下 ¥1,000  
〈会場〉白山市松任文化会館 ビーノ 大ホール  
〈問合せ〉石川県立音楽堂チケットボックス  
TEL.076-232-8632

2.15 [土] 15:00開演(14:00開場)  
富山公演  
AUBADE SYMPHONIC WAVE 2025

●芸術監督:須藤見 ●指揮:柴田真都  
●ヴォーカル:加藤登紀子、根本要、  
一青窈、田島貴男、森崎ウィン、  
石崎ひゅーい

【全席指定】一般 ¥8,000 / ベア ¥15,000 / U-25 ¥3,000  
〈会場〉オーパドホール  
〈問合せ〉(公財)富山市民文化事業団 総務企画課  
TEL.076-445-5610

2.23 [日] 15:00開演(14:00開場)

氷見公演  
～萬斎のおもちゃ箱～



2/22(土) 金沢公演と同じ

【全席指定】  
一般 ¥8,300 / 高校生以下 ¥2,500

●児童合唱:  
Drops & 児童合唱団「翼-Tsubasa」

〈会場〉氷見市芸術文化館  
〈問合せ〉氷見市芸術文化館 TEL.0766-30-3430

3.6 [木] 18:30開演(17:45開場)  
第41回東京公演  
沖澤のどか&牛田智大  
OEKを再発見、新発見



3/8(土) 金沢公演と同じ

【全席指定】S席 ¥6,000 / A席 ¥5,000  
B席 ¥4,000 / C席 ¥2,000 / 車椅子席 ¥5,000  
〈会場〉サンリーホール  
〈問合せ〉石川県立音楽堂チケットボックス  
TEL.076-232-8632

3.9 [日] 15:00開演(14:30開場)  
浜松公演



●指揮:沖澤のどか  
●チェロ:鳥羽咲音

プロコフィエフ/古典交響曲  
サン＝サーンス/チェロ協奏曲 第1番  
オネゲル/交響曲 第4番「パーセルの喜び」

【全席指定】  
一般 ¥6,500 / 学生(24歳以下) ¥1,500  
〈会場〉アクティシティ浜松 中ホール  
〈問合せ〉(公財)浜松市文化振興財団  
TEL.053-451-1114

広上×OEKの  
オール・ベートーヴェン・プログラム



3.22 [土] 14:00開演(13:20開場)  
茅ヶ崎公演 (会場)茅ヶ崎市民文化会館

3.23 [日] 14:00開演(13:15開場)  
甲府公演 (会場)YCC県民文化ホール

ベートーヴェン/「プロメテウスの創造物」序曲  
交響曲 第4番  
交響曲 第7番

〈問合せ〉オーケストラ・アンサンブル金沢  
TEL.076-232-0171

【全席指定】一般 ¥5,000 / 大学生以下 ¥2,000

がんばろう  
NOTO

# 能登復興支援 音楽堂マルシェ

買って応援！  
食べて応援！！

石川県立音楽堂の新しい試み！  
キッチンカーや能登物産の販売など  
能登の応援に！旅行のお土産に！ぜひお立ち寄りください。

GOODS

FOOD

※日によって、営業時間や出店者が異なります。  
下記二次元バーコード（音楽堂 HP ニュース欄）から  
ご確認ください。



能登のあたたかい笑顔に  
会いにきてね！



輪島朝市が  
出店する日も！



キッチンカーも  
続々登場！



豆皿絵付けなど  
お楽しみ体験コーナーも♪



石川県立音楽堂 1F ▲  
2F ▼



金澤ちとせ珈琲 自産 焙煎  
KANAZAWA CHITOSE COFFEE

## カフェ・コンチェルト

英国製スピーカー「タンノイ・オートグラフ」から流れる  
クリアなサウンドと共に、香り高い珈琲をお楽しみください。



休憩にもご利用いただけます  
ごゆっくりお寛ぎください

CHECK!!

音楽堂マルシェ

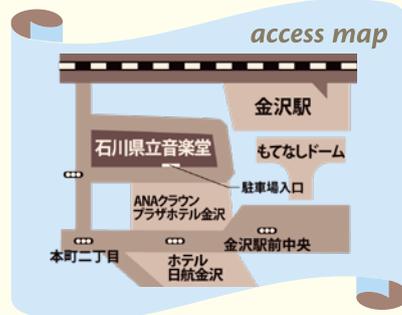


営業予定や出店者情報など

カフェ・コンチェルト



営業日やメニューのご案内



## 石川県立音楽堂 オーケストラ・アンサンブル金沢

チケットのお求め

石川県立音楽堂チケットボックス（石川県立音楽堂1F） TEL 076-232-8632（窓口）9時～19時（電話）10時～18時

（公財）石川県音楽文化振興事業団 石川県金沢市昭和町20-1 TEL 076-232-8111  
アクセス：JR北陸線 金沢駅兼六園口（東口）徒歩1分 / 北鉄バス 金沢駅下車

石川県立音楽堂HP  
<https://www.ongakudo.jp>



オーケストラ・アンサンブル金沢HP  
<https://www.oek.jp>

